令和7年度　諏訪二葉高等学校評価表（年度末）

長野県諏訪二葉高等学校　学校評価委員会

本校の学校教育目標	1　自主　2　努力　3　感謝
中長期目標	1　生徒一人ひとりの個性を伸ばし、主体性のある心豊かな生徒を育成する。 2　開かれた学校をめざし、保護者・地域から信頼される学校づくりを進める。
本年度の重点目標	1　キャリア教育を通じて自ら学ぶ姿勢を育て、生徒の進路希望の実現を図る。 2　「探究的な学び」を取り入れた授業改善により、生徒の課題解決力・コミュニケーション能力の育成、学力向上に努める。 3　いじめ、体罰のない安心・安全な学校づくりを図る。 4　学校生活の基盤となる規律ある生活態度を育成する。 5　生徒会活動や部活動の活性化を図り、生徒の自主性を育てる。 6　地域と連携し、開かれた学校づくりを推進する。

目標の項目別の評価とコメント　　評価方法　　A：成果が見られた　　B：向上が見られた　　C：改善が必要である

評価項目と評価の観点				観点別評価	項目評価	成果と課題	改善策
重点目標	評価項目		評価の観点				
1 生徒の進路実現を図る	より高い進路意識の育成を図り、分析会議等を充実させ学力向上の改善策を提言する。	①	・ＰＴＡ及び同窓会と連携した進路講演会の開催や進路通信の発行により、生徒・保護者に必要な情報を提供し、進路実現に向けた高い意識を涵養し、協力関係を強めて進路実現につなげていく。 ・学級担任や学年と連携を図りながら、生徒ひとりひとりの進路相談に応じて個の可能性を広げ、きめ細かい指導と情報提供を行って進路実現の手助けをする。	B	B	・PTAとの連携により、進路講演会が実施し、多くの生徒が具体的な進路選択を行うようになった。 ・進路通信の内容が一部の保護者にとって分かりづらく、情報の浸透が不十分であった。 ・ 学級担任や学年との連携により、生徒一人ひとりに対して的確な進路相談が行え、多くの生徒が自分の可能性を発見した。	・今後は、進路講演会や進路通信の内容をより分かりやすくし、保護者への情報提供を強化することで参加率を向上させる。 ・学級担任や学年との連携を深め、生徒一人ひとりのニーズに応じたきめ細かい指導を継続的に行い、進路実現を支援する。
		②	・学習・探求学習・ＩＣＴ教育係と連携しながら、模試分析システム等を活用してスタディーサポート・スタディーサプリや模試の分析を行い、学力・学習実態を把握する。また、充実した指導につなげるため、模試分析会議や進路検討会を開催し、情報を学年・教科と共有する。 ・学力向上および新大学入試に向けて先進的な取り組みをしている学校の例を参考にしながら、本校における改善策を検討・実施する。	B		・模試分析システムを活用することで、生徒の学力や学習実態が明確になり、効果的な指導が実施できた。 ・ 共有した情報が全ての教員に活用されておらず、一部の生徒への指導が不十分なケースが見受けられた。	・定期的な振り返りを設け、模試分析会議や進路検討会での情報を効果的に活用する方法を教員に共有し、指導の一貫性を高める。 ・各生徒に必要なサポートを提供するための定期的な個別面談を実施する。
	キャリア教育の充実を図る。	①	・キャリア教育全体計画に従い、次の目標を達成させる指導を行う。 ・総合的な探究の時間を通して自己を理解し、職業観や生き方など自分の将来像を描き、その実現のために学ぶという目的意識を持てるように、寄り添い指導していく。 ・情報収集判断能力、プレゼンテーション能力、自分自身の考えを伝える、相手の考えに耳を傾ける力を育てる。 ・幅広い分野についての探究を通して、地域社会の新たな課題を発見し、地域社会の一員として行動する態度を育成することができるようにする。 ・地元企業訪問、地元企業を知るを通じ、現場の方の経験談を聞くことで、明確な将来像を描きながら学習できるように、計画・実施する。	B	B	・総合的な探究の時間の取り組みとして、1学年は地元企業訪問を実施した。地元の企業について知る機会を増やし、次年度の探求につなげることを目的とした。また、学年発表会も企画し、情報収集判断能力、プレゼンテーション能力、自分自身の考えを伝える、相手の考えに耳を傾ける力を育てることができた。さらに、「地元企業を知る」では9社に協力いただいた。2学年は個人探究を行い、自分自身の興味関心について深める活動を行うことができ、年度末の最終発表会を通して、プレゼンテーション能力、自分自身の考えを伝える、相手の考えに耳を傾ける力を育てることができた。 ・小中学生への補習支援に上諏訪小学校12名、上諏訪中学校8名、諏訪中学校10名が参加し、教職についての理解や自らの学習内容の理解度について再認識することができ、大変いい取り組みになった。 ・夏休みに語学研修として、東京グローバルゲートウェイに2泊3日の研修を実施した。72名程の生徒が参加し、有意義な時間となった。	・探究の時間をさらに充実させるため、教職員のみならず、他の生徒からの助言を受ける機会を更に増やしていく。また、より教員の手を入れることができるように人員配置を次年度へ向けて考えていく。 ・来年度の「地元企業訪問」をより探求学習に繋げるべく、地域コーディネーターとの連携を強めていく。
2 生徒の学力向上に努める	生徒の学習意欲の向上に努める。	①	研究授業や授業アンケートの分析に基づき、より一層の授業の充実を図る。生徒の興味、関心を引き出すことができる授業を実践していく。	A	B	今年度は、3教科で研究授業を実施した他,キャリアアップ研修等の研究授業もあり、教科の壁を超えたいい時間となった。また、研究授業の中でロイロートを活用した実践例の紹介もあり、タブレットを有効活用した授業改善について考える時間となった。	・来年度も研修会等を計画し、職員全体へ共有していく。
		②	学習室、テスト前学習室等を設置し、定期考査に向けた学習を大切にさせるような環境・雰囲気作りにつとめる。	B		学習室の設置等により、生徒たちが快適に学習できる環境を作ることが出来た。しかし、利用者や参加者が少なくなってしまった。	・学習室の利用について、現状や生徒のニーズを鑑みて検討していく。
	生徒の学習習慣と学力の定着を図る。	①	学習実態調査等を利用し、規律ある生活と家庭学習の習慣の確立を図る。	B	B	・テスト前に学習時間調査を実施し、生徒たちの実態を把握することが出来た。	・調査した結果を全職員に共有するとともに、検討する機会を計画する。
		②	毎日の授業を大切にする意識を持たせるとともに、3年土曜セミナーや朝・放課後の学習等を充実させる。１・２年土曜セミナーを設け、模試の復習、質問等をきめ細かに対応し、さらなる学力の定着をはかる。自ら学ぶ意識を持たせ、家庭学習の充実につなげる。	B		・土曜セミナーは年度当初の計画の通り、実施することが出来た。しかし、参加者が減少傾向にある。朝・放課後補習も実施し、きめ細かな指導を行うことが出来た。	・土曜セミナーの内容や実施時期について見直し、どうしたら生徒が意識を高く参加を希望するかを考え、さらに良い内容にしていく。

3 安心・安全な学校づくりを図る	安心・安全な教育環境を作る。	①	いじめ、不登校など生徒の動向を細かく観察して、特別支援の係とも連携し、生徒の状況、問題を的確に把握し、適切に支援する。	B	B	本年度は生徒の人権感覚の未熟さから派生した様々な問題対応に追われたが、人権感覚を養うよう、予防的な生徒支援の手段として新聞記事などの題材を生徒支援係より提供し、各クラスで複数回、担任より人権意識の啓発、注意喚起を行っていただいた。また不登校傾向の生徒等に対しては、担任、特別支援の先生方を中心に外部機関との連携も含め、その状況の改善にご努力をいただいてきた。	各HRでの新聞掲示、担任の先生を中心とした人権感覚育成への啓発、注意喚起は効果があり、事例以後の問題発生をある程度予防してくれたと係としては考えているので、折に触れて学校全体で同様の支援を継続してゆく。
4 規律ある生活態度を育成する	規則を守り、生徒が安心して生活できる環境を整備する。	①	登下校時の街頭指導やHR連絡を通して、自転車乗車時のヘルメットの着用や交通マナー、ルールを守る意識を高めさせる。そして自分自身や周囲の人々の安全にも配慮するように支援（指導）する。また、本年度諏訪地区高校のグッドチャリダー推進校を受諾したので、警察とも連携して生徒への指導、安全確保に務める。	B	B	来年度からは高校生を含む16歳以上の自転車運転者に対する罰則、反則金も厳しくなるので、その旨を新聞記事や警察からのパンフレットを示し、生徒に注意を促してきた。またグッドチャリダー推進校として、生活環境委員が警察と共に3度自転車の安全啓発指導を校門や駅の駐輪場などで行った。警察との共同啓発は委員の交通安全への意識を高めたと考えている。	引き続き登下校の際の歩行マナー向上を呼びかけ、自転車乗車時のヘルメット着用についても啓発してゆく。また来年度の自転車運転罰則強化に向けてグーグルクラスルーム、教室掲示、集会の折などを通じて、より一層の注意喚起を行い、生徒の交通安全への意識を高めてゆく。
		②	特別な支援を要する生徒の把握に努める。個々の生徒の状況に応じた柔軟で多面的な支援をする。	B		担任や養護教諭との連携を図り、状況把握に努めた。心に悩みを抱える生徒のケアや保護者のケアなど、病院等の専門機関と連携しながら対応することができた。職員研修会も早期に実施した。カウンセリング希望者が多く途中は新規の生徒を優先させざるを得なかった。	カウンセリングの再配当があり迅速に実施できた事例もあったので、年度当初の配置時間増加を働き掛けたい。
5 生徒の自主性を育てる	生徒会活動の活性化を図る。	①	生徒の発想を活かしながら、テーマに沿った文化祭の企画や展示が行われるよう、各係間や生徒と教員との連携を図る。	A	B	2年連続で制限なしのフル開催ができた。先輩たちが繋げてきたものを在校生たちが受け継ぐことができた結果である。役員会での意見交換も活発で、今年は「Sparkle」というテーマのもと、生徒一人ひとりの輝きを大切にした企画を考え創り上げてきた。例えば、全校制作の「ガーランド」では、小さな三角形をした旗のカードに、一人ひとりが文化祭に向けたメッセージを書いて、それを紐でつなげて廊下の天井に吊るした。全校の想いが詰まった600枚以上のガーランドで天井が埋め尽くされ、生徒・職員をはじめ、多くの来校者に見ていただくことができた。また、今年度はクラス展示の希望が多かったが、会場の都合で限られたクラスのみの展示となったため、優先順位や決め方には課題が残った。生徒の力だけでは至らない点も多々ありましたが、先生方にアドバイスをいただきながら進めることができた。	クラス展示を行いたいクラスが多かったが、展示会場に限りがあり、希望するすべてのクラスの展示はできなかった。文化部の活動を優先しつつ、クラス展示の希望をかなえられるように検討していきたい。
		②	各委員会での当番活動を充実させ、生徒が意識と責任をもって委員会活動に取り組むことができるよう努める。特にエコマネジメントについて、各委員会でどのようなことができるかを検討し、生徒・職員が協力し成果を上げげるようにする。	B		委員長、副委員長は当番活動等にも責任をもって取り組めていた委員会が多い。ただ、委員ひとりひとりが責任を持って活動を行うとなるとまだまだ課題が多いように思われる。エコマネジメントの観点では、生徒総会の議案書をPDF化し、資源の節約につなげることができた。	当番活動においては、小まめに呼びかけを行い意識を高める。
	部活動等の活性化を図る。	①	部活動部が円滑に運営されるよう、部長（代表者）会の開催などにより活動環境を整備するとともに、生徒が自ら意欲を持って取り組めるよう働きかける。	B	B	部室管理については、教員の意見に限らず生徒会役員、部長会の意見を取り入れたより詳しい基準を作成し、生徒総会で承認された。活動環境を整備することへの生徒の意識が高まりつつあると思う。ただし、活動環境がいつでも整っているとは言えない現状があるため、今後も積極的に働きかけていきたい。連絡体制では、部長会の連絡網に同好会の連絡先を加え、全体の連絡が徹底できた。	練習環境整備においては、部活動顧問の先生方からの協力もいただきながら、生徒が責任をもって活動できるように支援していく。また、老朽化等に伴う怪我等がないように、活動環境を整えていく努力をしていきたい。
6 開かれた学校をつくる	PTA活動の充実を図る。	①	春期秋期学年懇談会を充実させ、ＰＴＡ活動の周知と多くの会員の参加により活動の活性化を図る。無理のない活動や交流の機会を検討する。	B	B	昨年同様春期学年懇談会は構内で実施し、秋期学年懇談会はすべてZoomで実施した。Zoomによるライヴ配信も行い、多くの保護者に参加してもらうことができた。業者を使わず、本校職員のみでの配信を研究、研修し、費用削減はできたが、不具合への対応に課題があった。	アーカイブ配信の希望が少なからずあるので研究する。アーカイブ配信を実施すれば音声等の不具合にも対応でき、また、当日都合のつかない保護者にも懇談会の様子を視聴してもらえるようになるので、ぜひ実施したい。
	地域との連携を図る。	①	学校評議員や保護者・地域からの声など外部の意見を積極的に聞くとともに体験入学・公開授業等、学校を開放する機会を設ける。地元の様々な機関と連携し、生徒の探究活動を支援する。	A	A	予定通り春・秋2回の授業公開と、中学生体験入学を行うことができた。秋の授業公開では3日間行ったが、参加者が少なく今後の課題である。 個別の学校見学も数件あり学校の様子を伝えることができた	授業公開（特に秋）では、期間の設定および学校の様子をどう伝えてゆくかの工夫をしていく。
	広報活動の充実を図る。	①	教育活動内容をＷｅｂサイトを通じて速やかに発信し、生徒の日々の活動が迅速に伝わるようにする。学校案内パンフレットがわかりやすいものになるように工夫する。	B	B	Webサイトは担当者が変わったこともあり年度当初掲載がうまくいかないことがあった。できるだけ、小さな行事などもこまめに掲載することを心掛けた。	情報発信が効果的に生徒や地域の皆さんに伝わるよう工夫したい。

令和7年度 諏訪二葉高等学校評価表（学校評議員）

長野県諏訪二葉高等学校　学校評価委員会

本校の学校教育目標	1　自主　2　努力　3　感謝
中長期目標	1　生徒一人ひとりの個性を伸ばし、主体性のある心豊かな生徒を育成する。 2　開かれた学校をめざし、保護者・地域から信頼される学校づくりを進める。
本年度の重点目標	1　キャリア教育を通じて自ら学ぶ姿勢を育て、生徒の進路希望の実現を図る。 2　「探究的な学び」を取り入れた授業改善により、生徒の課題解決力・コミュニケーション能力の育成、学力向上に努める。 3　いじめ、体罰のない安心・安全な学校づくりを図る。 4　学校生活の基盤となる規律ある生活態度を育成する。 5　生徒会活動や部活動の活性化を図り、生徒の自主性を育てる。 6　地域と連携し、開かれた学校づくりを推進する。

目標の項目別の評価とコメント　　評価方法　A：成果が見られた　B：向上が見られた　C：改善が必要である

評価項目と評価の観点				A		B		C		D		E		F		G	
重点目標	評価項目		評価の観点	項目評価	ご意見など	項目評価	ご意見など	項目評価	ご意見など	項目評価	ご意見など	項目評価	ご意見など	項目評価	ご意見など	項目評価	ご意見など
1 生徒の進路実現を図る	より高い進路意識の育成を図り、分析会議等を充実させ学力向上の改善策を提言する。	①	・ＰＴＡ及び同窓会と連携した進路講演会の開催や進路通信の発行により、生徒・保護者に必要な情報を提供し、進路実現に向けた高い意識を涵養し、協力関係を強めて進路実現につなげていく。 ・学級担任や学年と連携を図りながら、生徒ひとりひとりの進路相談に応じて個の可能性を広げ、きめ細かい指導と情報提供を行って進路実現の手助けをする。	B	理系学力の底上げを。	A	学力向上に向けて取り組まれていると思う。 土曜講座、キャリア教育TGG等とても先生方はご苦労されていると思うが、よい取り組みであると思う。効果は大だと思う。	A		B	企業・行政・地域との連携しながら、生徒の企画・提案・発送に期待したい。	B	・外務省高校講座はとても良い鳥くいだと思いました。 ・総合的な探究：改善の方向性、検討状況がよくわかりました。 ・より広い世界を生徒に見せてほしい。	B	・保護者アンケートからも、学校からの情報提供は適切に行われている様子がうかがえる。 ・キャリア支援は学校だけでなく家庭での対話も重要だと思う。今後連携して生徒の「なりたい」をかなえる支援をお願いしたい。	A	
		②	・学習・探求学習・ＩＣＴ教育係と連携しながら、模試分析システム等を活用してスタディーサポート・スタディーサプリや模試の分析を行い、学力・学習実態を把握する。また、充実した指導につなげるため、模試分析会議や進路検討会を開催し、情報を学年・教科と共有する。 ・学力向上および新大学入試に向けて先進的な取り組みをしている学校の例を参考にしながら、本校における改善策を検討・実施する。														
	キャリア教育の充実を図る。	①	・キャリア教育全体計画に従い、次の目標を達成させる指導を行う。 ・総合的な探究の時間を通して自己を理解し、職業観や生き方など自分の将来像を描き、その実現のために学ぶという目的意識を持てるように、寄り添い指導していく。 ・情報収集判断能力、プレゼンテーション能力、自分自身の考えを伝える、相手の考えに耳を傾ける力を育てる。 ・幅広い分野についての探究を通して、地域社会の新たな課題を発見し、地域社会の一員として行動する態度を育成することができるようにする。 ・地元企業訪問、地元企業を知るを通じ、現場の方の経験談を聞くことで、明確な将来像を描きながら学習できるように、計画・実施する。														
2 生徒の学力向上に努める	生徒の学習意欲の向上に努める。	①	研究授業や授業アンケートの分析に基づき、より一層の授業の充実を図る。生徒の興味、関心を引き出すことができる授業を実践していく。	A		B		B		B		B	・課題認識はよくわかります。 生徒が学習室や土曜講座を利用しない要因をどのように分析されていますか。 昨年も同傾向だったと認識していますので、要因分析が進んでいるとよいと思います。	B	・学習室の環境・運用について、生徒の意見も参考に検討してもよいのでは。	A	土曜セミナー、模試のおかげで学習する時間が増えたのでとても良かったと思います。	
		②	学習室、テスト前学習室等を設置し、定期考査に向けた学習を大切にさせるような環境・雰囲気作りにつとめる。														
	生徒の学習習慣と学力の定着を図る。	①	学習実態調査等を利用し、規律ある生活と家庭学習の習慣の確立を図る。														
		②	毎日の授業を大切にする意識を持たせるとともに、3年土曜セミナーや朝・放課後の学習等を充実させる。１・２年土曜セミナーを設け、模試の復習、質問等をきめ細かに対応し、さらなる学力の定着をはかる。自ら学ぶ意識を持たせ、家庭学習の充実につなげる。														
3 安心・安全な学校づくりを図る	安心・安全な教育環境を作る。	①	いじめ、不登校など生徒の動向を細かく観察して、特別支援の係とも連携し、生徒の状況、問題を的確に把握し、適切に支援する。	B	スマホ（SNS）等のトラブルをなくす取り組みを」中高連携で！	C	スマホ（SNS）やネットの使い方、一歩間違えると恐ろしいことを知らなければいけない。	C		B		C	・個別対応にお忙しいと思いますが、何らかの対策を示していただけると安心だと思います。 "やらない"行為の代わりに何をやるかなど。	B	ハラスメントの意識の育成・対応、倫理観を持った社会人になる支援をお願いします。	B	
4 規律ある生活態度を育成する	規則を守り、生徒が安心して生活できる環境を整備する。	①	登下校時の街頭指導や朝HR連絡を通じて、自転車乗車時のヘルメットの着用や交通マナー、ルールを守る意識を高めさせる。そして自分自身や周囲の人々の安全にも配慮するように支援（指導）する。また、本年度諏訪地区高校のグッドチャリダー推進校を受諾したので、警察とも連携して生徒への指導、安全確保に務める。	B		C	もっと安全指導に力を入れてほしい。 自転車のマナー違反が厳しくなり罰則もあるため。	B		B		B	・個への支援ありがとうございます。 個人の問題で終わらせず、構造的課題の有無、取り組みの検討を期待します。	B	・今後もご指導お願いします。	B	
		②	特別な支援を要する生徒の把握に努める。個々の生徒の状況に応じた柔軟で多面的な支援をする。														
5 生徒の自主性を育てる	生徒会活動の活性化を図る。	①	生徒の発想を活かしながら、テーマに沿った文化祭の企画や展示が行われるよう、各係間や生徒と教員との連携を図る。	A	思う存分取り組める環境を継続的に。	B				A		B	部活動（運動部）の成果に期待する。	A	・二葉祭3年間見させていただきました。 年々充実してきており、良いものになっていると感じました ・生徒の自主性尊重はすばらしい。さらに視野を広く「できること」ではなく「やりたいこと」と主張できるようになるとさらに良いと思います。 ・地域貢献も期待します。	B	・定期的な進捗確認などモニタリングし適切なフィードバックで承認していくことも大切と思う。 年々、文化祭も盛り上がり生徒の満足感も高いと思う。	A	
		②	各委員会での当番活動を充実させ、生徒が意識と責任をもって委員会活動に取り組むことができるよう努める。特にエコマネジメントについて、各委員会でどのようなことができるかを検討し、生徒・職員が協力し成果を上げるようにする。														
	部活動等の活性化を図る。	①	部活動部が円滑に運営されるよう、部長（代表者）会の開催などにより活動環境を整備するとともに、生徒が自ら意欲を持って取り組めるよう働きかける。														
6 開かれた学校をつくる	PTA活動の充実を図る。	①	春期秋期学年懇談会を充実させ、ＰＴＡ活動の周知と多くの会員の参加により活動の活性化を図る。無理のない活動や交流の機会を検討する。	B		C	保護者へのオクレンジャー、ライブ配信等先生方が工夫している点はよいと思うが、学校とのつながりが少しなくなって来ているのではないか。授業yを参観するとか生の生徒を見る機会がない。	B		B		B	・PTA活動（ZOOM）ありがとうございました。 授がH外信は昨年から提案させていただいております。お手伝いすることがあればお声がけください。 ・保護者の巻き込み不足はボディーブローのように効いてきます。早く手を打った方がよいと思います。	B	・評議員会やPTA、地域活動を通じ二葉港の良さを身近に感じている。 今後も多くの機会を生かして発信していただきたい。	A	学年懇談会は、ZOOMによる配信がありとても助かりました。今後もZOOMを積図けていただき、アーカイブの配信があるとなお保護者はうれしいと思います。	
	地域との連携を図る。	①	学校評議員や保護者・地域からの声など外部の意見を積極的に聞くとともに体験入学・公開授業等、学校を開放する機会を設ける。地元の様々な機関と連携し、生徒の探究活動を支援する。														
	広報活動の充実を図る。	①	教育活動内容をＷｅｂサイトを通じて速やかに発信し、生徒の日々の活動が迅速に伝わるようにする。学校案内パンフレットがわかりやすいものになるように工夫する。														